

気温上昇に対応した岐阜県果樹の産地移動・新品目導入のための基盤技術の開発

- 実施期間：令和4～8年度
- 担当部署：果樹・農産物利用部、病理昆虫部、中山間農研作物・果樹部
- 区分：プロジェクト（農業の気候変動適応プロジェクト）

○研究内容

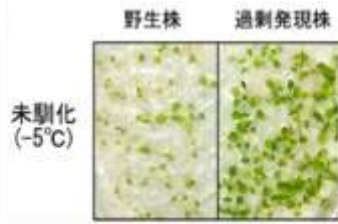
地球温暖化の影響により今世紀末には本県の気温は4℃程度上昇すると予想されています。気温上昇に伴って、既存の果樹産地では同一樹種の栽培が困難になる可能性が高まっています。そこで、本課題では、将来の気温上昇に対応した品目の選定・気温上昇途上での早期産地化のための耐凍性評価や栽培ならびに防除方法の確立、既存品目の長寿命化のための高温対策技術といった本県の果樹産地を将来にわたって持続させるために必要な基盤となる技術の開発を行います。



濃赤：現在のカキ園地
薄赤：2026~2050のカキ適地

マッピング

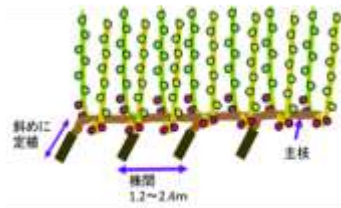
将来予測による各地の品目選定のための適地マップの作製



CPS3を過剰発現させたArabidopsisの発芽の様子（低温下でも良く生育する）（農研機構）

発現解析

低温ショックタンパク質の発現解析による各樹種・品種の耐寒性の評価



省力単純化栽培

新産地定着のため単純化した栽培技術を確認。アボカドについては手引書作成



防除法確立

病害虫の分布や異なる発生消長に対応した防除方法を確立

現有産地の長寿命化（既存品目の高温対策技術や高温適性を有した品種の育成や選定を実施）